

10
月号

木室駐在だより

筑後警察署

発行 木室駐在所 中山 裕太

高齢者の交通事故防止



筑後署の
ホームページ

秋から冬にかけては、夕暮れから夜間の高齢歩行者の交通死亡事故が**増加傾向**～全歩行中死者の約7割が高齢者

高齢歩行者の死者数 **15人**（前年同期比－1人）
（令和7年上半期）

夜間の視認性と安全性をUP！



黒っぽい服約26m



約2倍

反射材着用約57m

★「真夜中の訪問」

時計の針が午後9時を指すころ、ソファでは妻が、沢山の昼寝をして中々寝付かない息子をあやし、私はその傍らで、木室地区皆さんの安全を祈りながら制服にアイロンをかけていた。そんな静かな夜、「今日は早く寝ようかな、それとも・・・」と思いを巡らせていた、私の背中に突然「きゃ～ッゴキブリ！！」と妻の叫び声が炸裂した。

木室駐在所で勤務するようになって間もない頃、前任者の言葉「ゴキブリ防除剤を置いていけば4年間、1度もGを見ませんでした。」を信じ、あらゆる場所にゴキブリ防除剤を設置していた私は、「Gが出るはずない。」と思いつつ、恐怖で速まる鼓動を抑えながら振り向いた。そこには「デカイ！黒い！気持ち悪い！」Gに向かって、息子をソファから避難させ既に臨戦態勢の妻、私は右手の熱いアイロンを息子に届かない位置に置くと未だ幻だと思うGの動向を見つめていた。

私は、ゴキブリ防除剤に全幅の信頼を置いていたため、殺虫剤の準備はなく、Gの処理について緊急家族会議を開いた。Gを潰してしまうと後処理が憂鬱になることから武装隔離案を採用し、両手にゴム手袋を装着、右手にビニール袋と簡素な武装で対峙することになった。覚悟を決めた私の突進にGは、私の足の親指に触覚を撫でて逃走した。

Gに接触された私は、様々な感情が爆発し、「絶対確保！」の信念で突入すること5回、何とか捕獲してビニール袋を何重にも重ね、逃走防止の措置を講じた。

疲れ切った身体で玄関戸を開けると、いつもの静かな夜に戻り、心地よい鈴虫の鳴き声が奏でられ、今後も駐在所管内の平穏を守ることを誓った。

暴走はしない！
させない！
見に行かない！

STOP 暴走!